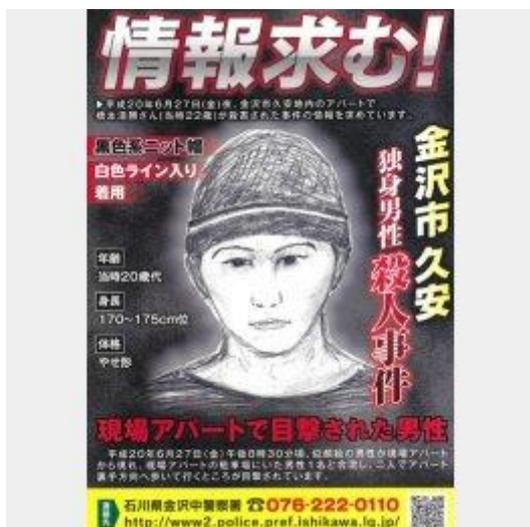


[声を放つ 当事者の証言](#) 日刊ゲンダイ

2008年金沢・橋本清勝さん殺害事件 事件から14年…目撃人物の似顔絵を公開

公開日：2022/11/05 06:00 更新日：2022/11/05 06:00



2008年6月27日の夜、金沢市の会社員・橋本清勝さん（当時22）が自宅アパートで何者かに殺害された事件は、14年が過ぎた今も犯人が検挙されていない。石川県警は今年6月、事件当日に現場で目撃された人物の似顔絵の公開に踏み切った。

県警の発表では、事件当日の夜8時30分ごろ、現場アパートの駐車場で2人の男性が目撃されていた。公開された似顔絵は、うち1人のものだ。

男性は当時20歳代とみられ、身長は170～175センチくらいで、やせ形。白いラインの入った黒系のニット帽をかぶり、黒系のTシャツと紺系のジーパンという服装だったという。

県警は、似顔絵の男性らを現時点で犯人と断定はしていない。それでも、自らも事件の情報を探る活動をしてきた清勝さんの両親は、似顔絵の公開を前向きに受け止めている。

「去年と一昨年はコロナのため、私たちもあまり活動できず、取材も少なかったんです。今年似顔絵が公開されたこともあり、取材も多かったです」

そう話すのは、清勝さんの父・充史さん（56）。母・真由美さん（57）もこう言う。

「この14年の間、いろんな方の支援がありました。それが、警察が捜査を強化して下さることにつながっているように思います」

2人の長男、清勝さんは08年6月29日の夜、連絡がとれないことを心配した交際相手の女性により自宅の台所で亡くなっているのを発見された。この時、事件からはすでに2日が過ぎていた。頭部に鈍器で複数回殴られた痕があり、死因は脳挫傷と推定された。

充史さんと真由美さんはこの女性から電話で事件のことを知らされた時、加賀市の自宅で就寝中だった。半信半疑で、自分たちに起きたことが夢か現実かもわからないまま、車で清勝さん宅に向かった。

到着すると、立ち入り禁止の規制線が張られ、警察の現場検証が行われていた。この時、警察はすでに清勝さんの遺体を運び出していた。しかし、2人はすぐには清勝さんに会わせてもらえなかった。充史さんがこう振り返る。

「僕らはまず、この1週間の行動を警察から事情聴取されたんです。調書もとられました。『そんなことせんと、清勝に会わせてくれ』と言ったんですが、『お父さん、お母さん。すみませんけど』と言われ、僕と家内は別々にされ、携帯電話も調べられました」

2人が清勝さんと会えたのは明け方のこと。場所は警察署の地下の駐車場だった。真由美さんがこう振り返る。

「ドラマだと、こういう時は霊安室みたいな綺麗な部屋で、綺麗なベッドの上で、白いお布団をかけられて……というイメージですけど、その駐車場は真っ暗で、壁は寒々としたコンクリートで、清勝は救急車のストレッチャーのようなものに乗せられ、ブルーシートみたいなものをかけられていました。それから私は、『これは清勝じゃない！』と暴れたみたいなんですけど……そのあたりはよく覚えていないんです」

■血だらけの現場で…

一方、充史さんはこの日、清勝さんが殺害されたアパートでの警察の現場検証に立ち会いを求められた。

「血だらけの現場で、僕は言われるままにいろいろなものを一つ一つ指さして、それを警察の人が写真に撮っていきました。なんで、被害者の身内にこんなことをさせるのか……と」

夢か現実かもわからない状況の中、次々と耐え難い目に遭った充史さんと真由美さん。この時は犯人がその後、14年も捕まらないとは思ってもよらなかった。

「一体なぜ、清勝が死なないといけなかったのかを知りたい」



「また来るね」

事件当日の朝、清勝さんはそう言って、加賀市の実家から会社に出勤した。

「それが最後に聞いた清勝の言葉です」と充史さん。真由美さんがこう振り返る。

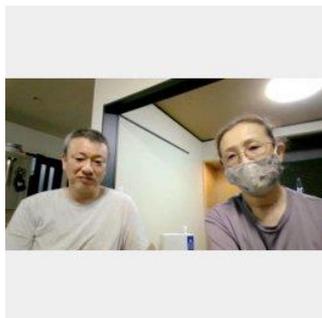
「清勝には年が離れた弟がいるんですが、清勝は弟思いで。私たちが仕事で忙しいとき、彼女とのデートに弟を連れて行ってくれたこともありました。事件当時もしょっちゅう実家に帰ってきて、おばあちゃんを車で買い物に連れて行ってくれたりもしていました」

そんな清勝さんがいなくなり家族の生活は一変した。充史さんは酒量が増え、自分でも「どうにかなるんじゃないか」と思う状態に。真由美さんは、うつのような状態になり、事件から2年ほどの記憶が曖昧という。

「担当の刑事さんが親身になってくださり、毎日のように訪ねてきてくださって。当時は気づけなかったですが、まだ中3だった清勝の弟も、私たちを支えてくれていたんです」

なんとか持ちこたえた2人だが、一方で犯人はいつまでも捕まらなかった。

交友関係を中心に1000人以上に事情聴取



橋本さんの両親（提供写真）

自宅で殺害された清勝さんは上半身裸で、携帯電話がなくなっており、事件は当初から「顔見知りの犯行」の可能性が高いとみられた。

しかし、石川県警が清勝さんの交友関係を中心に1000人以上に事情聴取しても有力な手がかりは得られなかった。

「小中学校、高校を通じ、先生方からはムードメーカー的な存在だと言われていた」（真由美さん）という清勝さんは、通夜にも700人を超える人が訪れるほど交友関係が広がった。そのことが犯人の絞り込みを難しくしたのかもしれない。

そう考えた充史さんと真由美さんが情報を募る活動を始めたのは事件から1年になる頃のこと。現場近くや金沢市の商業施設などで横断幕やパネルを掲げたり、チラシを配ったりして情報提供を呼びかけた。

「Treasure 清勝」というホームページも開設。犯人逮捕に結び付く情報提供者に上限200万円の報奨金を私的に出すことも告知し、情報を募ってきた。

この間、2人の友人たちが「清勝会」という支援団体をつくってくれ、活動に協力してくれるように。殺人事件被害者遺族の会「宙の会」の人たちもさまざまな助言をしてくれた。

県警は当初、県内では前例のない被害者遺族の行動に戸惑い気味だったが、今は街頭での情報提供の呼びかけに捜査員たちも参加してくれるという。

「捜査に関わり、定年退官された刑事さんも『悔しい』という思いを持ち続け、今も街頭での活動の際は足を運んでくださります。警察の方には感謝しかないです。そういういろんな方がいて、私たちが活動を続けられる源になっています」

そう語る真由美さんはこの間、がんを患った。しかし、気丈にこう言う。

「清勝とは『無念を晴らす』と約束しているので、こんなことで負けてられません」

充史さんはこう話す。

「犯人が捕まっても、僕らは今いるステージから違うステージに行くだけです。でも、一体なぜ、清勝が死なないといけなかったのかを知りたいです」

そのために2人は今後も動き続けていく。

(ノンフィクションライター・片岡健)